

まちの話題

第22回生活展



第22回を数える富士見町生活展が11月28日(日)に町民センターで行われました。今年は「めざせ健康富士見21、美しい環境町づくり」をテーマに29団体が参加しテーマに合わせ、各々の活動内容を発表しました。

特に私たちの生活の根源にある食生活や健康については参加者も興味を引くようで、食品添加物の入らない健康食品、地元の食材を利用した料理の紹介や体脂肪、血圧、たばこの影響度測定、血液サラサラ度など健康チェックコーナーは沢山の人で賑わっていました。

また地元の高校生が環境保護を目的に木炭や竹炭を製造販売したり、町内の精神障害施設やその家族の皆さんが障害者に対する偏見を無くすよう理解を求めたり、生活展にふさわしい内容の濃いイベントでした。

しめ縄・ミニ門松づくり講習会

正月を前に毎年恒例のしめ縄・ミニ門松づくり講習会が12月12日、創作館ゆとりろで行われました。今年は材料のワラが不作で入手が困難だったようですが、しめ縄は三井一照さん(乙事)、ミニ門松は早川秀策さん(乙事)の指導のもと、立派な飾りができました。中には小さなお子さんといっしょに参加された方もいて、和気藹々の中、各々自作の飾りができました。ちなみに、しめ縄は300円、ミニ門松は1,300円の材料代で出来ました。



ふるさとのみなさんへ

東都高原富士見会だより



三井 知夫
東京都杉並区
(大平出身)

故郷富士見を出て今年で丁度60年になります。終戦の年に教員に採用されて以来、都内の公立学校や教育委員会などに勤め60歳で定年退職し、続いて私立女子中学・高等学校に14年間勤務、平成12年に54年間にわたる教育関係の仕事に終止符を打ち、自由の身になりました。

富士見を離れて初めて東京で生活するようになった頃は常に故郷のことが頭から離れませんでしたが、望郷の念が人一倍強かったのかも知れません。東京の教育界には、「みすず会」というのがあって、信州出身の教育関係者が年に一度の懇親会に集りました。当時東京都の教育長だった小尾庸雄先生が会長で、会の時など信州弁丸出しで話すのが

楽しかったものです。啄木の「故郷の訛り懐かし停車場の人混みの中にそを聞きにゆく」と歌った心情が痛いほどよく分かったものでした。

また、心の拠り所となる東都高原富士見会には最近あまり出席できませんが、若い頃はよく参加して同郷の人々との交流に心温めたものでした。そのほか、清陵富士見会というのがある、年二回会合をもっています。一回は東京で他の一回は富士見で地元の同窓生も参加してゴルフを楽しんだ後、親睦会をするのが恒例となっています。また、長野県人会連合会もあって、その理事会などでも富士見出身の人に会えて楽しみです。故郷富士見町の益々の発展を願って止みません。